

岐阜県リニア中央新幹線建設工事安全対策専門家会議（1 / 14）
意見要旨

〈危険区域への立入りの原因と対策〉

- ・ 立ち入る前に、十分な切羽観察が行われていたのか
- ・ 切羽や側壁が見える明るさが確保されていたのか
- ・ 発破後、「天端で脚線を発見」と記載されているが、脚線がどこに残っていたのか、作業員からどう見えていたのか
- ・ 作業班が入れ替わる際に、切羽の状態等をしっかりと引き継ぐ体制となっていたのか

〈肌落ちの要因と対策〉

- ・ 切羽観察のうえ支保工等を決定するという手順について、丁寧に行われていたのか
- ・ 補助ベンチ長を通常より長く変更するなど、イレギュラーな施工となる場合の支保工等について、十分な検討が行われていたのか
- ・ 肌落ち箇所でのロックボルトの必要性等について、十分に検討が行われたのか
- ・ それぞれの局面で、何がリスクになり得るのかを判断する能力が必要ではないのか

〈事業者を含めたリスクマネジメント体制〉

- ・ 当該現場に限らず、現場作業員の専門的な経験が減ってきている中、現場での様々なリスクに対応するため、これからは事業者も積極的にリスクマネジメントに関与していく体制が求められるのではないのか
- ・ リスクを特定していく意味で、リスクアセスメントの考え方が必要であり、原因となりうる要因を一つ一つ挙げ、その対策を整理することが必要ではないのか